

# 翔

百万石蝶談会 No. 164

October 2003



## 特別寄稿 《金沢市医王山でムモンアカシジミを採集》

浅地 哲也

石川県と富山県の県境付近の医王山でムモンアカシジミを採集したので報告する。

ムモンアカシジミ 2003年8月2日 1頭 石川県金沢市医王山三千坊 浅地哲也



この日はチョウのことは忘れ、コオニヤンマ、エゾトンボを狙っていたところ、オレンジ色のチョウが飛び出したので、追っかけて採集すると本種だった。

石川県に産するゼフィルスの総ては、医王山で採集できると聞いていたので、ムモンアカシジミも普通に見られる種と思っていたが、この採集は、医王山では2頭目と知り驚いている。

### 《参考文献》

松井正人 (1998) チョウ目蝶類. 石川県の昆虫 : 342-365. 石川県.

《あさじ てつや 921-8021 金沢市御影町 2 6 - 7 》

## ナカジロサビカミキリの越冬成虫を採集

大脇 淳

オオムラサキとゴマダラチョウの幼虫を採集中に、エノキの木の根元の落ち葉にしがみついて越冬しているナカジロサビカミキリを採集したので、報告する。

ナカジロサビカミキリ (成虫) 2003年2月19日 石川県金沢市鈴見台 大脇 淳

採集したときは、ピクリとも動かなかったが、暖かい部屋に持ち帰ると、良く動いた。本種を同定し、本稿の執筆を薦めてくださった江崎功二郎氏に、深くお礼申し上げる。

《おおわき あつし 〒920-0942 金沢市小立野1-23-20》

## 石川県金沢市でシータテハの生息を確認

松井 正 人

採卵調査によって、2002年にカラスシジミの生息を確認した金沢市寺津に於いて、食樹を同じくするシータテハの幼虫を観察したので、報告する。

観察した幼虫は、初齢から3齢で、林内にある日陰のオヒョウの幹から出た小枝の葉裏に付いていた。

2003年 5月10日 石川県金沢市寺津 10幼採集（オヒョウ） 松井正人



幹から出た小枝の葉を裏返して見付けたシータテハの初齢幼虫

石川県におけるシータテハの記録のほとんどは、白山に近い石川郡の白峰村、尾口村、吉野谷村、河内村にあり、幼虫は、白峰村、尾口村、吉野谷村の3村で、オヒョウから観察されている。金沢市以北では、金沢市、河北郡津幡町、鹿島郡鹿島町、羽咋郡志賀町の1市3町で6頭の成虫が採集されているが、幼虫などの観察は、今回が最初と思われる。

今後は、シータテハ成虫とオヒョウが確認されている鹿島町石動山や、オヒョウのみが確認されている輪島市深見一乗での幼虫の観察が期待される。

石川県内のオヒョウの分布についてご教示いただいた「能登の山を歩く会」の林 二良氏、金沢大学理学部所蔵の標本を調べていただいた「石川植物の会」の高木政喜氏に、厚くお礼申し上げます。

### 《 参考文献 》

江口元章 (1991) 能登におけるシータテハの記録. 翔(93) : 2.

越虫編集部 (1992) 1991年の活動報告. 越虫(23) : 1-5.

松井正人 (1992) 石川県のタテハチョウ4. 翔(99) : 1-4.

松井正人 (2000) 能登地方でシータテハの夏型を採集. 翔(146) : 1.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 2002年の石川県輪島市におけるアサギマダラの調査

日吉芳朗・日吉南賀子・日吉宏朗

### ■2002年の概況

筆者らは、アサギマダラのマーキング活動を始めてまだ日は浅いが、1999年は5月23日、翌2000年は5月30日に初観察し、兩年共に5月下旬から6月にかけて輪島市の山地で少数ながら、その姿を認めることができた。ところが、2001年には、その数がとりわけ少なかったことから、2002年の観察が心配されていた。事実、2002年は、5月から6月にかけて1頭すら目撃することなく終り、6月15日に高洲山で松井正人氏が2幼を目撃された（松井、2003）のが唯一の記録であった。

この状況は全国的に見られたようで、2002年は観察され始めるのは遅く、いなくなるのも早く、全体的に数も少なかったようである。このことから、輪島市の現象も、全国的な傾向の現れであったかにみえる。なお、輪島測候所の観測によると、2002年の5～9月の気温は平年とほとんど変わりなく、気候もとくに問題があったわけではないとのことであった。

### ■マーキング状況

2002年は、鉢伏山でのマーキングが可能であるかを危惧していたが、アサギマダラは7月20日に突然その姿をあらわした。そして、24日前後に一つの大きなピークがみられ、8月1日を前後してもう一度ピークがあった。その後、8月5日頃から減少に向かい、8月10日頃にはほとんどその姿を消し、再び現れることはなかった。2001年は、8月20日に姿を消したが、2002年はそれより10日早く姿を消し、この時期が次第に早まっているようにもみえる。というのは、1996年には同地で9月15日にもなおヨツバヒヨドリで吸蜜する多数の個体を目撃できたからである（日吉、2000）。

鉢伏山のマーキング数は例年通りであった。しかし、ヨツバヒヨドリの衰退で、観察される期間が短くなったことは否定できない。ヨツバヒヨドリは杉林の中にあり、スギの木の成長とともに徐々に減少しているように見え、そのうちなくなってしまう可能性も考えられる。なお、筆者らは、この調査を毎年9月15日前後まで行っている。

2002年における筆者らのマーキング記録を、表1に示す。再捕獲地は、山形、京都、愛知（2件）、和歌山（2件）の府県であるが、詳細は百万石蝶談会（2002）に記されている。

### ■舳倉島の状況

輪島沖50kmの日本海に浮かぶ舳倉島では、2000年と2001年の兩年に、5月下旬から6月上旬、そして9月下旬から10月上旬にかけての短い期間に、かなりのアサギマダラが目撃されていた。ところが、2002年は、バードウォッチャーや島民によれば、ほとんどその姿を見かけることがなかったとのことである。その中で、5月1日から3日にかけての目撃記録は、これまでになく早いもので注目される。しかし、これより本年の移動の時期が早かったとは考えづらい。舳倉島での記録を表2に示す。

表1 2002年の輪島市におけるアサギマダラマ-キング頭数など

月日	計(内訳)	鉢伏山	高洲山	時刻	温度	天気
7月6日	1(1♂)	1♂		11:00	24	曇
7月20日	19(11♂8♀)	11♂8♀		8:30-10:25	25	曇
7月21日	25(20♂5♀)	17♂5♀	3♂	7:25-9:41	23	霧
7月23日	95(66♂29♀)	66♂29♀		6:36-12:15	24	曇
7月23日	24(18♂6♀)	18♂6♀		17:13-18:38		晴
7月24日	121(75♂46♀)	74♂46♀	1♂	6:45-13:00	25	晴
7月25日	95(71♂24♀)	70♂23♀	1♂1♀	6:17-11:19	24	霧
7月26日	50(38♂12♀)	38♂12♀		6:48-8:45	24	晴
7月27日	57(45♂12♀)	45♂12♀		6:25-8:27	24	霧
7月27日	30(25♂5♀)	25♂5♀		15:55-17:21	24	晴
7月29日	13(11♂2♀)	11♂2♀		7:00-8:10	23	晴
7月30日	25(23♂2♀)	23♂2♀		6:25-7:43	22	晴
7月31日	46(39♂7♀)	39♂7♀		6:35-8:37	24	曇
8月1日	80(68♂12♀)	68♂12♀		6:16-10:19	25	曇
8月2日	3(3♂)	3♂		6:55-7:05	25	雨
8月2日	2(2♂)	2♂		17:34-17:52		雨
8月3日	34(30♂4♀)	30♂4♀		6:20-7:55	23	晴
8月4日	28(22♂6♀)	22♂6♀		6:25-7:38	23	曇
8月5日	36(29♂7♀)	29♂7♀		8:25-10:15		曇
8月6日	23(20♂3♀)	20♂3♀		6:20-7:27	24	霧
8月9日	11(9♂2♀)	9♂2♀		6:51-7:40	25	曇
8月10日	5(4♂1♀)	4♂1♀		8:38-9:13	27	曇
計	823(630♂193♀)	625♂192♀	5♂1♀	空白欄の温度は未測定		

図1 2002年の輪島市におけるアサギマダラマ-キング頭数

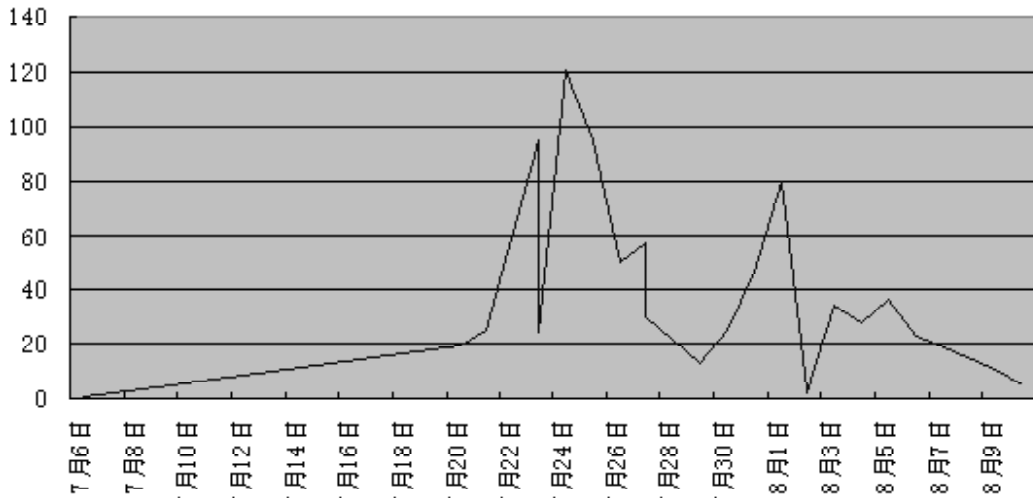


表2 2002年の舳倉島におけるアサギマダラの記録

月	日	観察内容	観察者	観察時間	天候	温度
4	23~29	目撃せず	後藤義夫	10:30~14:00		
5	1~3	2頭目撃	大西敏一	午前	晴	
5	5	1♀採集	矢田新平			
5	14~16	目撃せず	後藤義夫	10:30~14:00		
5	25~31	目撃せず	後藤義夫	10:30~14:00		
5	31	1頭目撃	木村三成・与野木秀吉	11:00		
6	1	目撃せず	松井正人	10:30~14:30	晴	
6	2	2頭目撃	大西敏一	13:00	快晴	
6	3	目撃せず	日吉芳朗	10:30~14:30	快晴	25
6	7	1♀目撃	大西敏一	14:00	快晴	
6	8	1♀目撃	大西敏一	6:00	晴	
6	15	目撃せず	松井正人	10:30~14:30	晴	25
9	4~7	目撃せず	渡部良樹		曇	27
9	26	1頭目撃	橘和雄			
9	27	1♀目撃	大西敏一・矢田直樹	6:30	曇	
9	28	1頭目撃	清田潔		曇	
10	5	目撃せず	日吉芳朗	10:30~14:30	晴	26
10	12	目撃せず	松井正人	10:30~14:30	快晴	24

最後に、島での調査に御協力をいただいた輪島市立上野台中学校舳倉島分校の端谷豊治教諭、多数のバードウォッチャーの方々、とりわけ一宮市の後藤義夫、大阪市の大西敏一、国立市の渡部良樹の諸氏、そして、民宿つかさ、民宿つきの皆さんに厚くお礼を申しあげる。

《参考文献》

- 日吉芳朗 (2000) 輪島市におけるアサギマダラの今昔. 翔 (142) : 1-3.  
 百万石蝶談会 (2002) 2002年アサギマダラのマーキング活動と再捕獲記録. 翔 (159) : 8.  
 松井正人 (2003) 2002年アサギマダラ日記. 翔 (163) : 5-8.

《ひよし よしろう 〒928-0001 輪島市河井町 1部64-1》

《ひよし な が こ 〒928-0001 輪島市河井町 1部64-1》

《ひよし あつろう 〒928-0071 輪島市輪島崎町 3部24》

○	短 報 164				○
	クマゼミ	2003年 8月 6日	石川県金沢市兼六園	声を聞く	澤田 博
	クマゼミ	2003年 8月 20日	石川県金沢市御影	声を聞く	浅地哲也
	ツクツクボウシ	2003年 9月 15日	石川県輪島市舳倉島	声を聞く	日吉芳朗
○					○

## 石川県に於けるアサギマダラの食草利用状況

松井正人

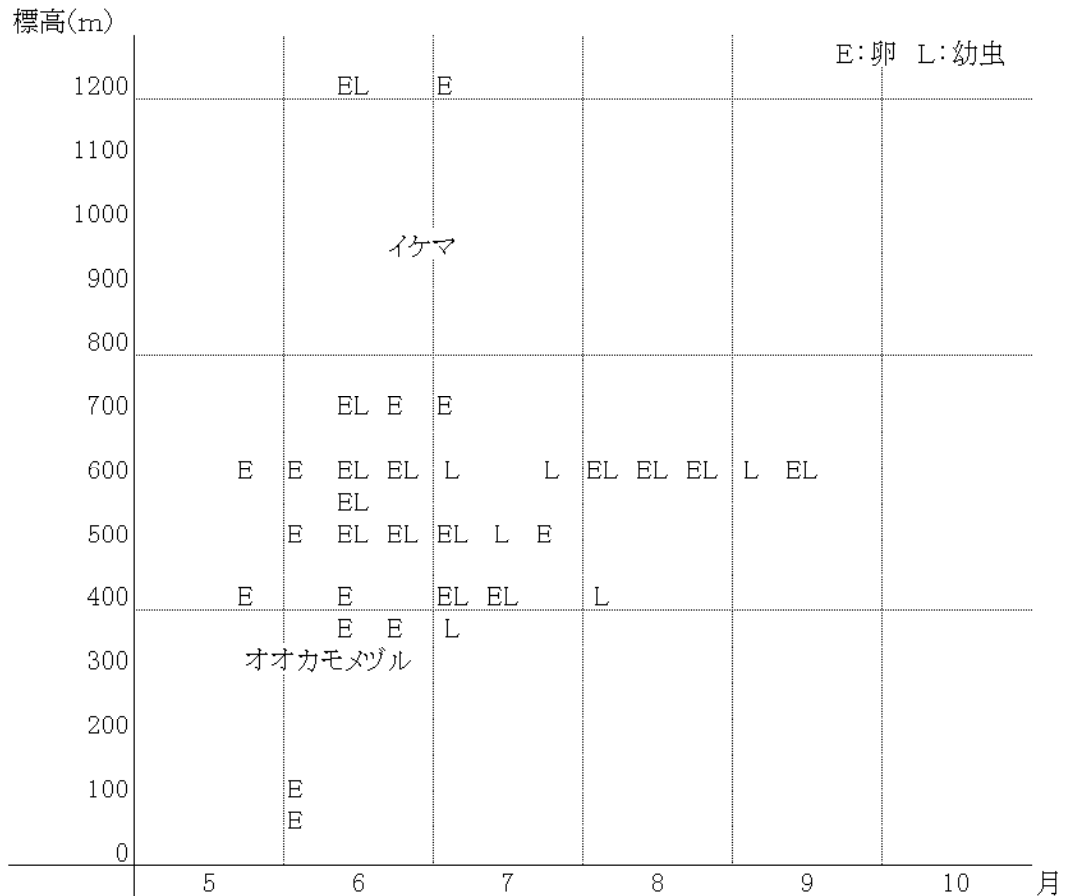
石川県内で、アサギマダラが食草として利用している植物は、冬に地上部が枯死するオオカモメヅルとイケマで、常緑のキジョラン等は石川県には生育していない。

オオカモメヅルとイケマは、5月に芽を出し、6月になって大きく伸び、葉も大きく展開するため、卵が観察されだすのは6月に入ってからがほとんどで、5月の観察は2例しか知られていない。

観察例が多いのはオオカモメヅルで、加賀市錦城山の標高60m付近から、石川郡尾口村、同郡吉野谷村、同郡白峰村などの標高700m周辺まで、県内の広い範囲で観察されている。

イケマは、高標高地で利用されている食草で、白山周辺の尾口村、吉野谷村、白峰村の標高500mから1200mにかけて観察されているほか、羽咋郡押水町宝達山の標高600m付近においても観察されている。

以下に、中西元男氏が考案された「食草利用状況図」の石川県版を示す。



《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 捕まえちゃった

小 幡 英 典



大きな獲物にどことなくはにかんだ表情のカマキリの幼体(2003年8月13日 石川県金沢市米泉)

ウバメガシの生け垣に生えてきたエノキの木に、ゴマダラチョウの幼虫を見つけたのが本年の4月20日。一週間後には、いなくなっていまい、絶えてしまったと思っていました。

その後、全くチェックしていなかったのですが、先日、エノキの4m程の高さの揺れる葉の間に見え隠れする白黒の縞模様を発見。成虫が産卵しているのかと思いましたが、どうも、止り方が不自然。よくよく見れば、カマキリに捕食されているところでした。

ゴマダラの触覚と足は弱々しく動いており、絶命には至っていないようでした。

《 おばた ひでのり 〒921-8044 金沢市米泉10-39-2 厚生年金宿舎105号 》



## 金沢市角間におけるウラナミアカシジミの採集記録

高田 兼 太

ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata* は、クヌギやアベマキを食草とすることが知られている種で（白水、1980）、金沢市内ではキゴ山、榎尾、加賀朝日、曲子原、国見など様々な地点から採集されているが（松井、1998）、金沢市角間からの採集記録については報告されていないようである。

筆者は、金沢大学角間キャンパス周辺に広がるコナラ、アベマキが優先する二次林で本種を採集したので、ここに記録しておく。

2003年6月15日 石川県金沢市角間 1頭採集 高田兼太

金沢大学里山ゾーンに隣接するクリ園で、クリの花で吸蜜中の個体を採集した。

### 《 参考文献 》

白水隆監修（1980）原色日本蝶類図鑑。422pp.

松井正人（1998）チョウ目蝶類。石川県の昆虫：342-365。石川県。

《たかだ けんた 〒920-0934 金沢市宝町6-26 二井マンション》

## 金沢市角間におけるヤマトタマムシの採集記録

高田 兼 太

ヤマトタマムシ *Chrysochroa fulgidissima* (Schonherr)は、エノキ、ケヤキ、サクラ、カシ類の枯木を宿主とするタマムシ科の甲虫で、県内からは、山中町今立、加賀市黒崎町、片野鴨池、鶴来町今町、金沢市広坂での採集記録が報告されている（高羽・他、1998）。筆者は、金沢市角間丘陵にある金沢大学里山ゾーンで本種を採集した。まだ、金沢市角間での正式な採集記録がないようなので、ここに記録しておく。

2003年7月15日 石川県金沢市角間 1頭採集 高田兼太

金沢大学里山ゾーン内のコナラ、アベマキ林で、低木上に制止中の個体を採集した。

### 《 参考文献 》

高羽正治・他（1998）甲虫目。石川県の昆虫：102-251。石川県。

《たかだ けんた 〒920-0934 金沢市宝町6-26 二井マンション》

### シルビア展翅はルーペが頼り

細沼氏、このところ毎夜シルビアシジミを展翅しているが、なかなかほかどらない。それもそのはず、片手がルーペでふさがれていては、名人と言えども難しい。

### イシガケチョウが採れるかも

一化、二化、三化と発生を重ねる度に、飛翔範囲を拡大するイシガケチョウが、六月に福井県小浜市で採集された。それから四ヶ月、そろそろ加賀市辺りに飛来しているかもしれない。狙いはイチジクで、建物近くで小川が用水が流れる場所であれば、幼虫が付いているかもしれない。

### カワラバツタ確認でご満悦

カワラバツタは、石川県のレッド種で、おそらく一九九四年以来確認されていない。レッド種ハンターの富沢氏は、熱中症の危険も顧みず猛暑の河原調査を続け、三日目にしてようやく確認した。

### 輪島で常設トラップを設置

日吉氏、オヒヨウの森と河畔林に常設トラップを設置し観察を続けている。スミナガシやクロコムラの常連に交じって珍客ウスイロコノマが現れたこともあり、シートテハやアカコムラも飛来しないかと待ち望んでいる。

### 続日本産蝶類文献目録が発刊

本編発行後十八年、待ち望まれた続編が、ついに発行された。一九七八年から二〇〇〇年までに発表された二十三年分の蝶に関する報文が、電話帳のような約七センチの厚さの中にまとめられ、関係者の苦労の後にじんんでいる。

### ホテイチクの捕虫網

釣竿で珍重されるホテイチク、捕虫網の柄にも良いと磨き込んでいた松井氏の姿に「年寄りくささ」を感じてしまった。つい最近まで、見てくれよりも機能性を追求していた彼なのに。

### 県内一斉七〇〇トラップ設置

歩行性甲虫の多様性を評価するために、珠洲市から山中町にかけての県内十六箇所にピットホールトラップを一斉に設置し、二週間後に回収するプロジェクトが進行している。仕掛け人は、金大の田辺氏で、石川県全体の歩行性甲虫の多様性の評価を試みる。

### 台風十四号の置きみやげか

台風十四号が通過した翌日、富来町でウスイロコノマが目撃された。ネットを持っていなかった生田氏、車に戻っている間に、逃げられてしまった。

### 台風十四号の置きみやげは

輪島の日吉氏、能登沖を通過した台風十四号の置きみやげを捜しに、波高四メートル、うねり三の海を渡り舳倉島調査を敢行した。なんともすごい日本海のうねりに翻弄されたにもかかわらず、置きみやげは無かつたらしい。残念。

### 例会の記録

八月七日(木)城南管工一階にて八時から開催。

ヤマクロシジミの観察目安は、崩れ易い岩壁。擁壁やコンクリートの吹きつけ等がなされていない無垢な岩壁の下には、岩屑が溜まりアリの恰好の棲み家となっている。しかし、最近は無垢な岩壁はほとんど無く、スノーシェードの上などにわずかに残されている程度。こんな所が、ヤマクロシジミの恰好な生息地となっている。等々、山地性クロシジミ探索のレクチャーが行われた。

その他の話題は、アサマシジミの華麗な異常型、医王山からネットが消えた日、クロコムラのエチゼンタイプとオクノトタイプ、毎日が日曜のおじさん各地に出没、片道五百五十km日帰採集記、真夏のオオズは深層に進入、アオタマ二人で二十七頭、などなど。参加は、松井、中西、山岸、細沼、生田省、井村の六人。

# 会員の動き・しゃばの動き

ふたたびクロアゲハの無尾型が採集された。輪島で、クロアゲハの無尾型が採集された。ミーカラやカラスと共に、吸水していたものを日吉氏が採集したもので、これで二頭目。輪島は無尾型因子が濃いようだ。

十六年ぶりのムモンアカシジミ 医王山で採集された十六年ぶりのムモンアカを狙って、次々と出撃した腕自慢ではあったが、今のところ追加確認は、なされていない。

奥能登の超レアもの採集さる コムラサキと言えはクロコムラを指す奥能登では、アカコムラは超レアもの。このアカが日吉宏朗氏によって一頭採集されたが、「五十年間狙っていたが、息子に先を越された」と悔しがる芳朗氏であった。

奥能登ライトにマルガタ飛来 奥能登のシマゲンを密かに狙っている富沢氏、珠洲のため池で真夏のライトトラップを決行。暑さにうだる中、マルガタ、クロ、ハイイロ等が飛来したが、お目当ては飛来しなかった。

別山日帰りクモベニ撮影行 標準コースタイムでは、十時間三十分の道のりを歩き、クモマベニヒカゲを見付けて満足のいく写真を撮る。ちよつときつかったかなと言う左合氏だが、これって超強行軍だと思いませんか。

アサギマダラ前線異常あり 輪島の鉢伏山は、アサギのマーキングポイント。日吉氏は例年千頭に及ぶマーキング

をこなしているが、今年はアサギがいない。地の利を生かして毎日のように通っているが、アサギはほとんど姿を見せない。

クロシジミ調査の成果やいかに 白峰周辺で盛んに行われたクロシジミ調査、岩壁を見れば下のススキを叩き、スノーシェードの上にも上がってみた。しかし、アサギは見付かるがチヨウは見付からない。

アカエゾゼミの新たな産地 エゾゼミの聞き分けは難しいとされているが、聞き分けられないことも無い。今年は、鈴ヶ岳や白山観光新道でアカエゾらしい声が観察された。

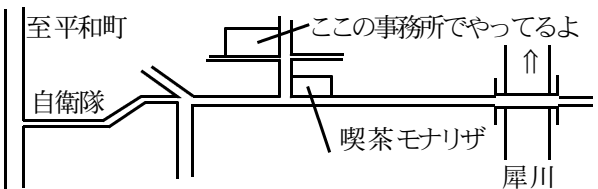
アサギ年鑑二〇〇二の特別企画 アサギマダラ年鑑には、都道府県別マーキング状況や再捕獲状況が掲載されているが、「二〇〇二」にはキジヨランやカモメヅルなど、食餌植物の全国に於ける利用実体も掲載される予定。

## 翔 164号

Tobu 2003年10月10日発行  
百万石蝶談会

<http://member.nifty.ne.jp/hakusan/>  
金沢市大場町東871-15 松井方  
☎920-3121 ☎076-258-2727  
郵便振替 00750-8-562  
印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から  
TEL参加もOKです (076-244-3318)



## 目 次 (164号)

浅地哲也：特別寄稿《金沢市医王山でムモンアカシジミを採集》	… 1
大脇 淳：ナカジロサビカミキリの越冬成虫を採集	…………… 1
松井正人：石川県金沢市でシータテハの生息を確認	…………… 2
日吉芳朗・日吉南賀子・日吉宏朗： 2002年の石川県輪島市におけるアサギマダラの調査	… 3
松井正人：石川県に於けるアサギマダラの食草利用状況	…………… 6
小幡英典：捕まえちゃった	…………… 7
高田兼太：金沢市角間におけるウラナミアカシジミの採集記録	… 8
高田兼太：金沢市角間におけるヤマトタマムシの採集記録	…………… 8
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	……………10